

令和8年度（2026年度）第2期募集

大学院総合学術研究科 修士課程入学者選抜試験 試験科目「専門英語」

解答例

問1

設問1)

否定的側面：睡眠の質の低下，集中力の低下，対人関係や生活満足度の悪化。

肯定的側面：スマートフォンが提供する学習や人間関係の機会やその活用。様々な教科において有効な学習支援となる。

設問2)

初めてスマートフォンを手にした年齢がウェルビーイングに及ぼす影響について，研究結果が肯定的・否定的なものが混在している。また，より若い年齢でインターネットやスマートフォンを利用し始めるとインターネット依存や問題のある利用をしていることも指摘されている一方で，使用習慣を考慮した分析では関連がみられなくなるなど，調査が不足していることから，デジタル・ウェルビーイングという観点で検討が必要だと考えているため。

設問3)

（評価の観点）

論文冒頭で筆者が投げかけている「子どもには何歳でスマートフォンを与えるべきか？」という問いに関連するさまざまな先行研究で示されている内容を踏まえたリサーチクエスションが説明できていること。

問2

設問1)

以下の3点が含まれていることが望ましい。

- ・ 伝統的な理解

従来の仮定では、治療同盟は「数セッションで形成され、その後は安定（維持）するもの」という静的な仮定に基づき、通常は治療中の1点のみで測定されていた。

- ・ 近年の変化

近年の研究では、治療同盟は「治療全期間を通じて変化する動的な構成概念」と再定義された。

- ・ 測定手法の変化について

1回きりの測定から、セッション毎（session-by-session）の継続的な測定へと移行するようになってきている。これにより、治療同盟の変化と症状の改善のどちらが予測因子でどちらが結果かという時間的關係（temporal relationship）の調査が可能になった。

設問2)

以下の内容について、箇条書きや表形式、文章などを通して明確に整理できていること。

手法	メリット	限界・課題
外部観察者によるコード化	患者・セラピストが報告できない（あるいはしたがない）側面を洞察できる。	観察可能な範囲に限定される。時間がかかり高コストであるため、セッション間の動態把握には不向き。
自動/半自動解析（生理・音響・行動等）	身体運動、音声指標、生理指標、言語特徴などをモーメント・バイ・モーメント（瞬間毎）に客観的に測定できる。	これらが「従来の治療同盟」と同じ概念を測定しているのか、どの概念を反映しているのかがまだ確定していない。